

2024年6月27日  
株式会社ロイヤリティ マーケティングPontaリサーチ会員3,000人に聞いた  
第60回 Ponta消費意識調査 2024年6月発表夏のボーナスの使い道、11年連続「貯金・預金」が1位  
～ 昨年と比較してボーナス金額が「増える」層は約半数で、旅行意向が高い ～

共通ポイントサービス「Ponta（ポインタ）」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：長谷川 剛、以下「LM」）は、消費者の意識とポイントの利用意向を把握するため、「第60回 Ponta消費意識調査」を「Pontaリサーチ」にて2024年5月17日（金）～ 5月21日（火）に実施いたしましたので、ご報告いたします。

## 注目ピックアップ

## 「夏のボーナス」の使い道

## &lt;消費者意識&gt;

- 夏のボーナスの支給額（P.2）
  - 今年の夏のボーナス支給金額が「増える・増える見込み」は53.6%
  - 夏のボーナスの支給金額は、「60万円～80万円未満」が1.9ポイント増加
- 「夏のボーナス」の使い道（全体・ボーナス額の増減別）（P.3～4）
  - 調査開始以降11年連続で「貯金・預金」が1位。「特にない」が1.8ポイント増加
  - 夏のボーナスの支給金額が増える層は、減る層よりも旅行意向が高い
- 夏のボーナスの「貯金・預金」の割合／「貯金・預金」の用途（P.5）
  - 夏のボーナスの支給金額の半分以上を「貯金・預金」したい人は、約6割
  - 「貯金・預金」の用途を「決めている」は約4割。用途は「老後の生活への備え」が約6割と最も高い

## &lt;節約志向&gt;

- 消費者の節約志向（P.6）
  - 「節約したい」派は66.9%となり、前回調査より0.1ポイント減少

## &lt;ポイントサービスの利用意向&gt;

- ポイントの活用意識と節約志向（P.7）
  - 「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が46.7%と最も高く「節約したい」派では、「いまつかいたい」が46.6%と最も高い。
  - 「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

## &lt;調査概要&gt;

調査方法：インターネット調査  
調査期間：2024年5月17日（金）～ 5月21日（火）  
パネル：「Pontaリサーチ」会員（Ponta会員で「Pontaリサーチ」への会員登録をいただいている方）  
回答者数：3,000人 男性、女性×年代別（20・30・40・50・60代以上）の各10セルで300サンプル  
※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。

## &lt;引用・転載の際のクレジット表記のお願い&gt;

調査結果引用・転載の際は、「Pontaリサーチ」調べとクレジットを記載していただきますようお願い申し上げます。

＼ LMは、「Ponta」の「便利・おトク・楽しい」世界が、いつでもどこでも広がる生活密着型サービスを提供しています ／

消費者意識

夏のボーナスの支給額

今年の夏のボーナス支給金額が「増える・増える見込み」は53.6%

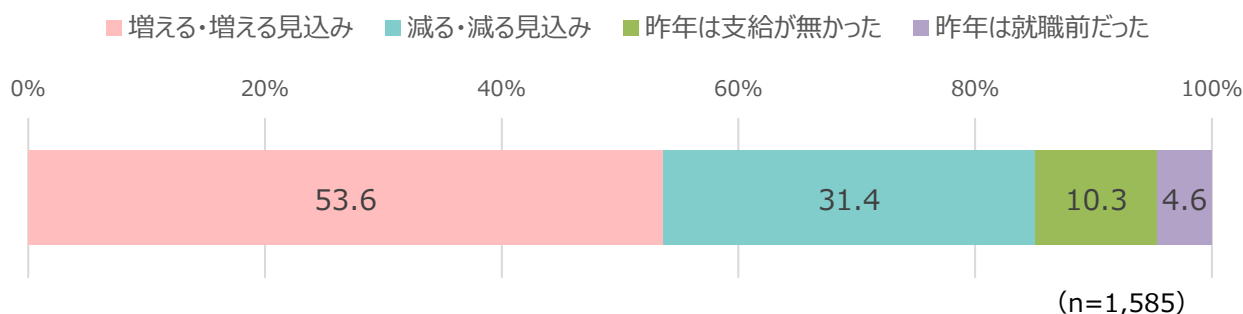
- 今年の夏のボーナスが支給される方（見込み含む）に、昨年と比較した支給金額について聴取したところ、「増える・増える見込み」という回答が53.6%、「減る・減る見込み」が31.4%となった。

夏のボーナスの支給金額は、「60万円～80万円未満」が1.9ポイント増加

- 夏のボーナスの世帯あたりの支給額（想定額を含む）は、前回調査と比べて「20万円未満」「20万円～40万円未満」「40万円～60万円未満」が減少し、「60万円～80万円未満」「80万円～100万円未満」が増加した。「60万円～80万円未満」の増加幅が大きく、1.9ポイント増加した。

■今年の夏のボーナスの金額（世帯あたり）は、昨年の夏のボーナスと比較して、どう変化したか教えてください。これから支給される場合は、見込みを教えてください。（単一回答）

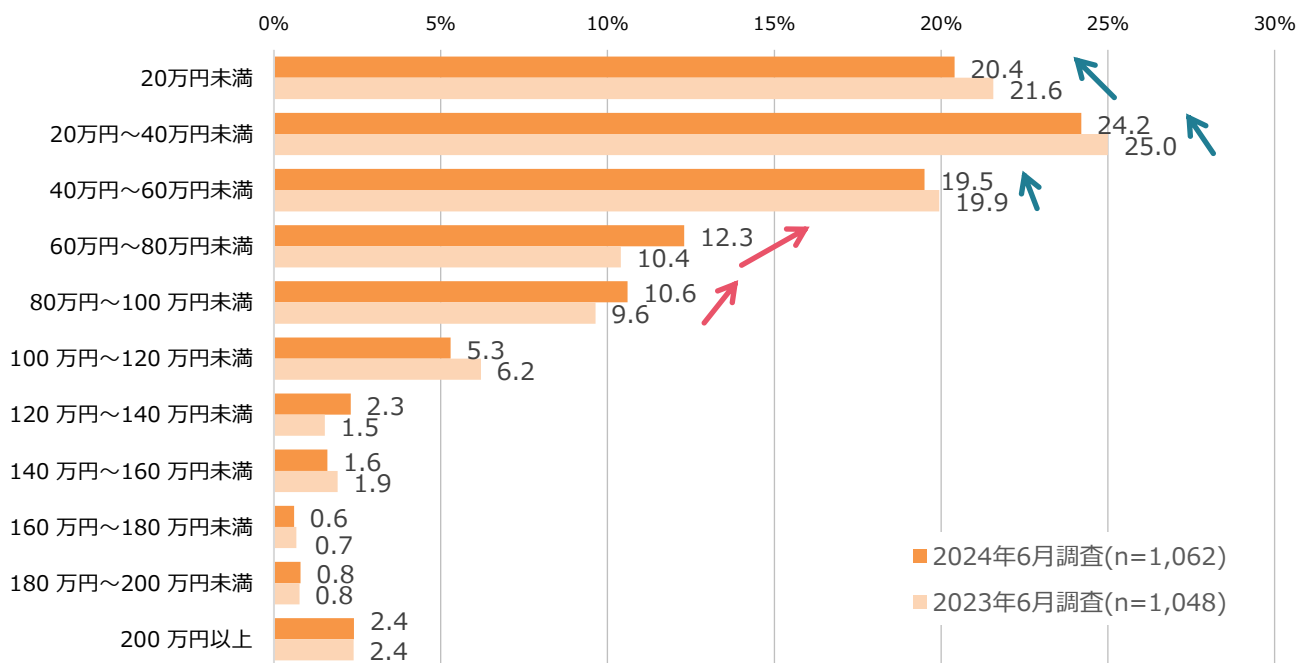
「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」（P.3）の設問に対し、「支給されない・分からない」と回答した方を除く。



■あなたもしくは家族にボーナスが支給される場合、今年の夏のボーナスの金額(世帯あたり)を教えてください。これから支給される場合は、想定される金額を教えてください。（単一回答）

「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」（P.3）の設問に対し、「支給されない・分からない」と回答した方を除く。

※本設問で金額を回答した方を抜粋（「分からない・答えたくない」と回答した n=523 を除く）



消費者意識

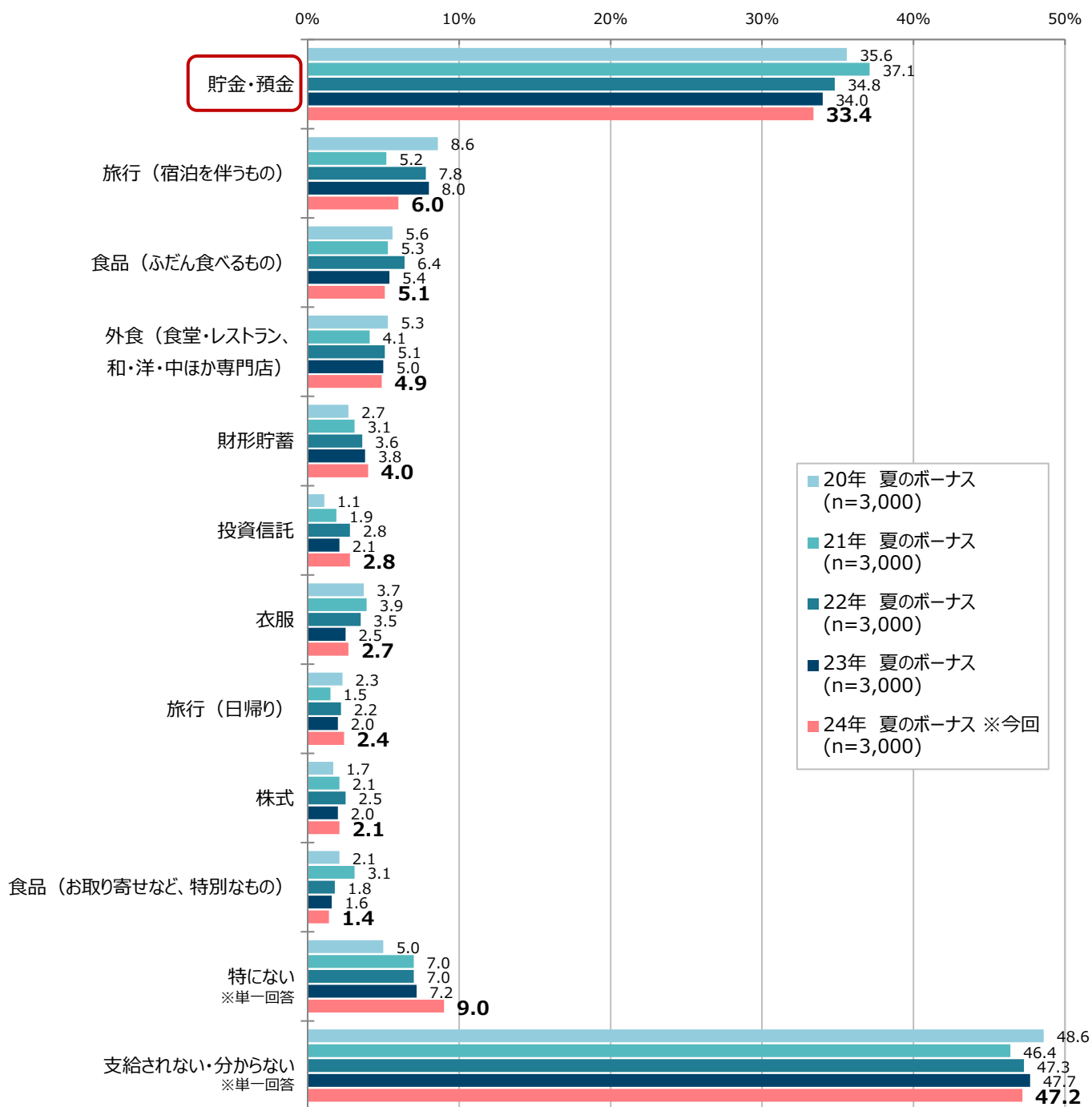
「夏のボーナス」の使い道（全体）

調査開始以降11年連続で「貯金・預金」が1位。「特にない」が1.8ポイント増加

- 2014年の調査開始以降、夏のボーナスの使い道は11年連続で、1位「貯金・預金」となった。割合を見ると2021年調査以降、減少傾向が続いており、今回は前回調査から0.6ポイント減の33.4%だった。次いで、2位「旅行（宿泊を伴うもの）」（6.0%）、3位「食品（ふだん食べるもの）」（5.1%）が続いた。
- 「特にない」は前回調査から1.8ポイント増えて、9.0%だった。

■今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。（3つまで）

※今回調査で上位10項目を抜粋（「特にない」「支給されない・分からない」を除く） ※回答が同数で順位に差がある場合は、小数点第2位以下に差があるため  
 ※2014～2019年の夏のボーナスに関する調査結果は、こちらからご確認いただけます。 (<https://www.loyalty.co.jp/storages/pdf/200624.pdf>)



消費者意識

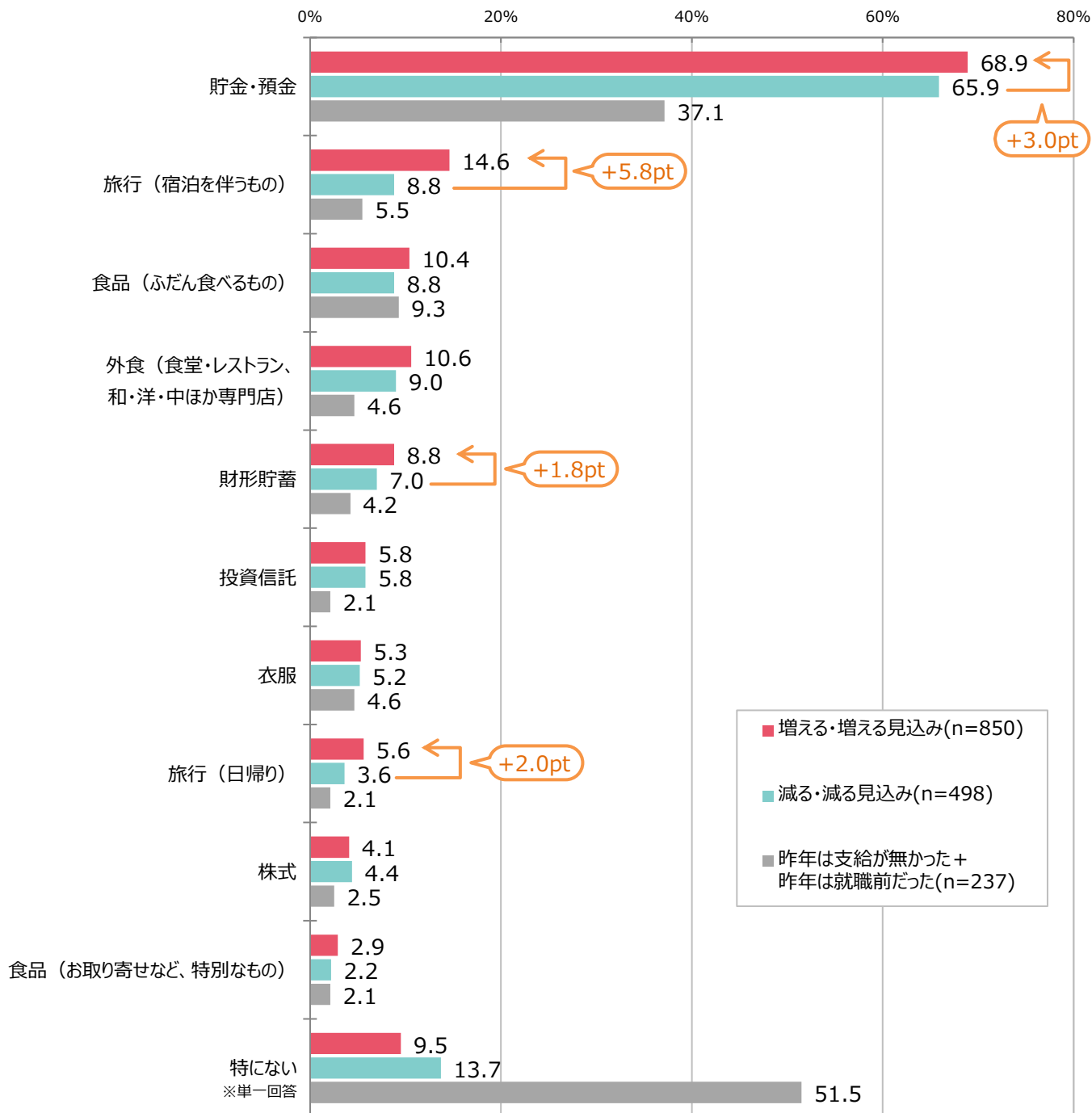
「夏のボーナス」の使い道（ボーナス額の増減別）

夏のボーナスの支給金額が増える層は、減る層よりも旅行意向が高い

- 夏のボーナスの使い道について、昨年と比べたボーナス支給金額の増減別に見ると、増える層は減る層よりも「旅行（宿泊を伴うもの）」が5.8ポイント高かった。「旅行（日帰り）」も2.0ポイント高く、旅行意向が伺える。また「貯金・預金」が3.0ポイント、「財形貯蓄」が1.8ポイント高い一方で、「投資信託」が同率、「株式」が0.3ポイント低かった。増える層に高い貯蓄意向が伺えるものの、投資意向では減る層との差は見られなかった。
- 昨年は支給が無かった+就職前だった層では、「特にない」が51.5%と約半数となった。

■今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。（3つまで）

※本設問に対し、「支給されない・分からない」と回答した方を除いて、今年のボーナスの支給額の増減を聴取した結果で集計  
 ※今回調査で全体の上位10項目を抜粋（「特にない」を除く） ※回答が同数で順位に差がある場合は、小数点第2位以下に差があるため



消費者意識

夏のボーナスの「貯金・預金」の割合／「貯金・預金」の用途

夏のボーナスの支給金額の半分以上を「貯金・預金」したい人は、約6割

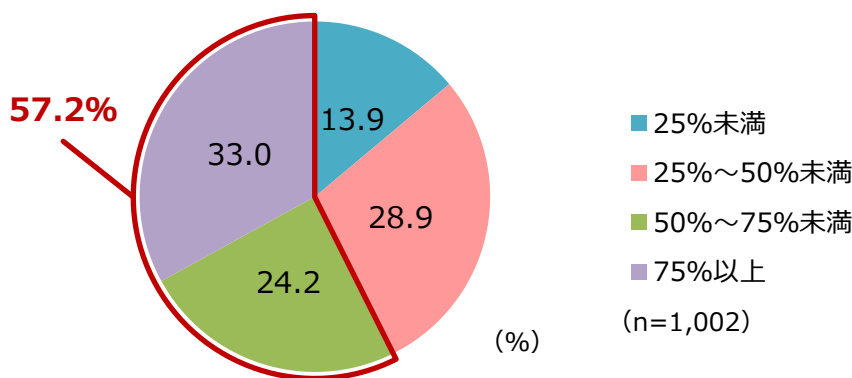
- 夏のボーナスの支給金額のうち、貯金・預金したい額の割合が「75%以上」という回答が33.0%、「50%～75%未満」が24.2%となった。合わせると、支給金額の半分以上を貯金・預金したい人は57.2%だった。

「貯金・預金」の用途を「決めている」は約4割。用途は「老後の生活への備え」が約6割と最も高い

- 夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」と答えた方のうち、用途を「決めている」のは42.9%となった。
- 貯金・預金の用途について、「老後の生活への備え」が63.0%で1位となった。2位の「将来の消費への備え」（37.2%）と比べると、25.8ポイント高かった。

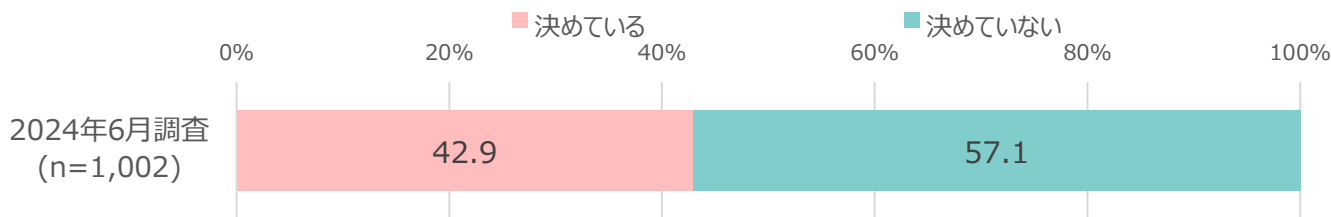
■ 支給される金額のうち、どの程度貯金・預金したいか、お答えください。（単一回答）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



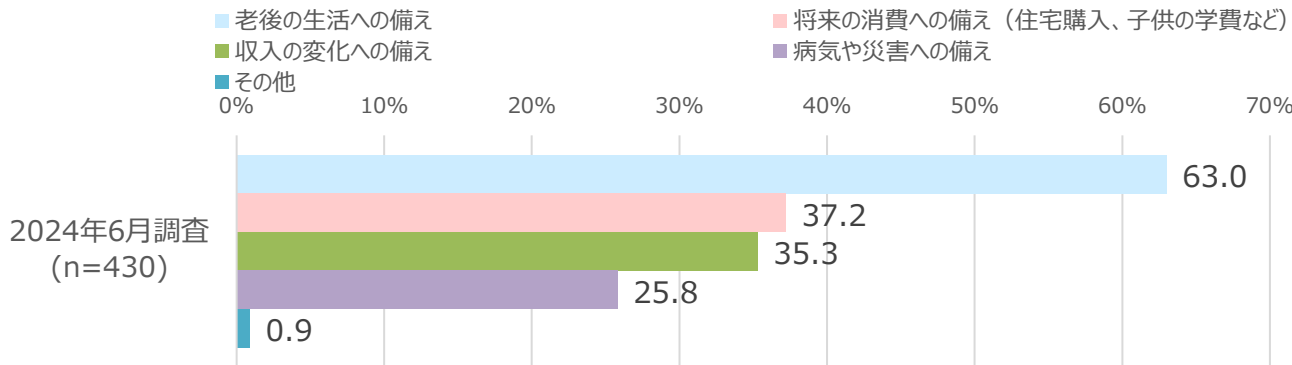
■ 「貯金・預金」の用途は決めていますか。（ひとつだけ）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



■ 「貯金・預金」の用途を教えてください。（いくつでも）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のうち、用途を決めている方のみ回答。



節約志向

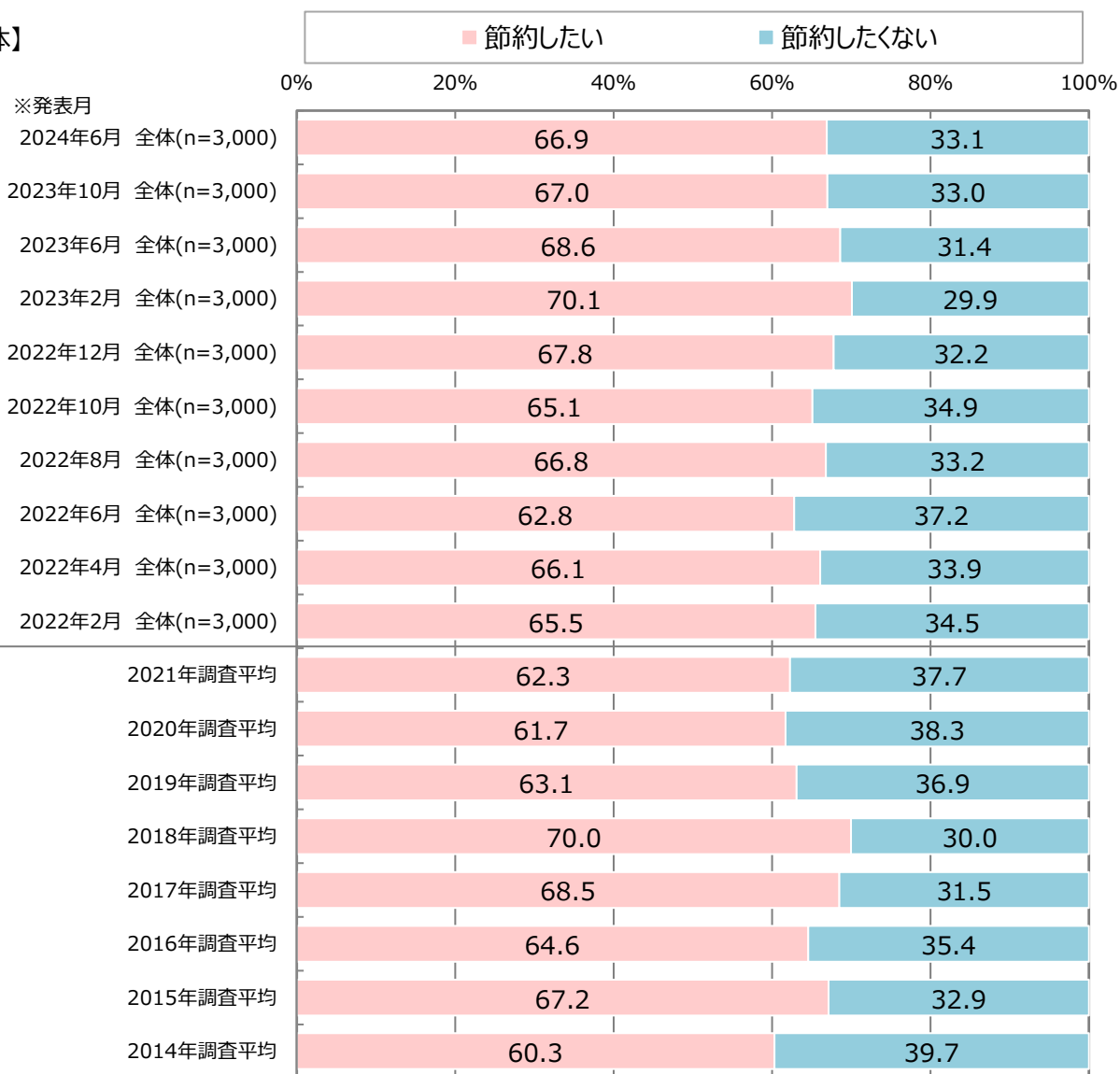
消費者の節約志向

「節約したい」派は66.9%となり、前回調査より0.1ポイント減少

・今月の家計の支出を節約したい金額に1円以上を回答した「節約したい」派は、66.9%となった。

■今月の家計の支出を節約したい割合

【全体】



・節約したい…節約したい金額が1円以上  
 ・節約したくない…節約したい金額が0円

【参考】 <設問> あなたは、今月の家計の支出をどのくらい節約したいですか。（半角数字で入力）  
 ※とくに節約したいと思わない人は「0」と入力してください。

※2014年調査平均は4～12月の偶数月5回分、その他の年ごとの調査平均は2月～12月の偶数月6回分の平均です。  
 各調査n=3,000、2014年4月調査のみn=3,013です。

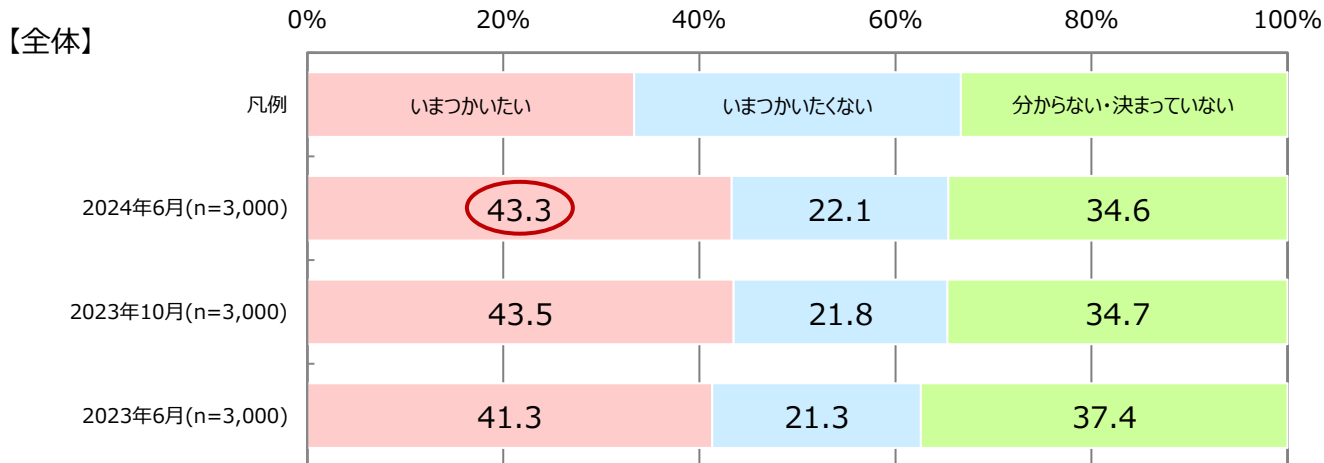
ポイントサービスの利用意向

ポイントの活用意識と節約志向

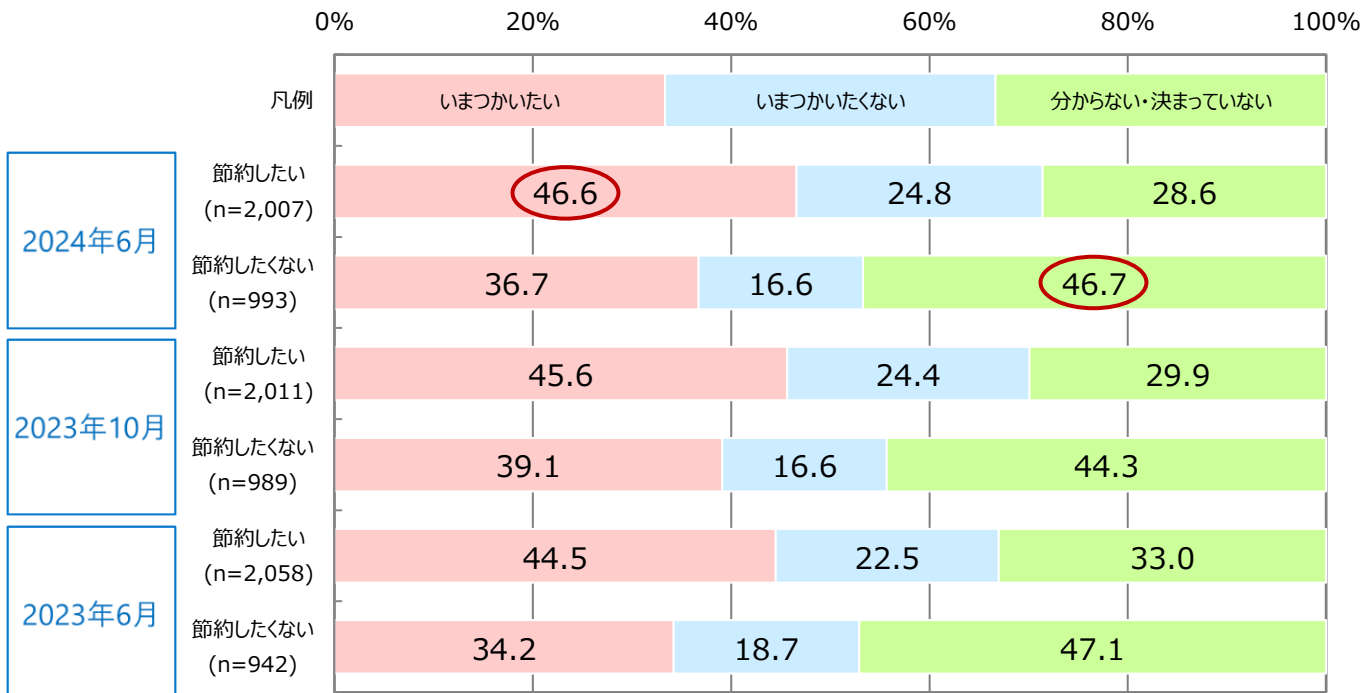
「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が46.7%と最も高く  
 「節約したい」派では、「いまつかいたい」が46.6%と最も高い。  
 「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

・いまPontaポイントをつかいたいかについて、全体で「いまつかいたい」が最も高く、43.3%となった。

■あなたはいまPontaポイントをつかいたいですか。(単一回答)



【節約志向の有無別】 (2023年6月～2024年6月調査)



<「Pontaリサーチ」について>

PontaリサーチはLMが提供するリサーチサービスで、Ponta会員のうち「Pontaリサーチ」にご登録いただいているPontaリサーチ会員を対象に、自主調査や企業および団体などから依頼を受けたアンケートをご案内しています。Pontaリサーチ会員の皆様は、アンケートにご協力いただくことでPontaポイントをためることができます。

「Pontaリサーチ」サイトURL : <https://www.loyalty.co.jp/ponta-research/>

